二〇二三年一二月八日

大枯木翳す千手に夕日射す　康　子
はふはふと梵字頂く大根焚　もとこ
小流れの奈落に見えて渓紅葉　ぽんこ
頂に小さき天守や紅葉山　む　べ
な滑りそ紅葉散敷く参磴に　こすもす
ふかふかに落葉をまとふ古墳山　なつき

二〇二三年一二月七日

黒ぼこを頭に乗せし霜柱　愛　正
参道は降り坂なり紅葉山　たか子
根上がりを隠し落葉の堆く　ぽんこ
綿虫や迷ふて歩く京の辻　たか子

二〇二三年一二月六日

瑠璃窓に聖樹またたく予約席　澄　子
目に紅葉舌に懐石贅きわむ　たか子
下町の湯屋の賑はひ冬至風呂　智恵子
黄落が窓覗きくる会議かな　む　べ
背伸びして両手に余る蒲団干す　きよえ

二〇二三年一二月五日

手袋の指差にクレーンの踊るやう　素　秀
矢のごとく新幹線や大枯田　なつき
落葉して現れし欅の力瘤　む　べ
目潰しの日に万華鏡めく紅葉　せいじ
己が影覆ひつくして銀杏散る　はく子
天窓に居着き動かぬ冬の蝿　素　秀
笹鳴や刻の失せたる丁目石　うつぎ
又一人喪中の知らせ星凍つる　満　天
旅人に振る舞ひ酒や里神楽　もとこ

二〇二三年一二月四日

水底の散紅葉へと日矢とどく　明日香
交差点落葉蹴散らすつむじ風　ぽんこ
糊の香に猫の躊躇ふ白障子　素　秀
吊るし柿良き色選りてお裾分け　みきえ

二〇二三年一二月三日

三輪山へ天使の梯子片時雨　明日香
傾ぎ癖なほす師走のカレンダー　なつき

二〇二三年一二月二日

夕刻の風が身を刺す師走かな　澄　子
鴨遊ぶ摩天楼ビル映る池　はく子

毎日句会みのる選・二〇二三年一二月一〇日